

## 納内地域の活性化に向けて

H26.3 納内地域集落対策協議会

### 1 納内地域の概要

納内地域は、明治28年から29年にかけて、屯田兵により200戸、1,102人が入植して開拓がはじまり、現在の農業を中心としたまちとして発展してきました。

また、明治31年には納内駅が設置されたことにより、駅前を中心に市街地が形成され、この中心市街地から約4km四方に住居が広がっています。

納内地域は、昭和38年に深川町、一已村、音江村と、昭和45年には多度志町と合併し現在の深川市となっています。

#### (1) 人 口

納内地域は、合併前の昭和36年に人口4,967人、969世帯を数えましたが、それ以降は転出による過疎化や、少子高齢化などで人口が減少し、平成25年10月には、1,922人、996世帯となっています。

年 次	人 口	世 帯 数
昭和36年	4,967	969
平成15年	2,421	1,073
平成25年10月	1,922	996

世代別の人口の特徴としては、15歳未満の年少人口が6.3%、15歳から64歳までの生産年齢人口が48.7%、高齢者人口が45.0%となっており、北海道と比較して高齢者人口が占める割合が18.7ポイント高く、高齢化の進行が進んでいます。

また、高齢者の独居世帯は、121世帯となっており、全世帯の12.1%を占めています。

世 代	納 内 地 域		北海道
	人 口	割 合	
年少人口（0～14歳）	122	6.3%	12.0%
生産年齢人口（15～64歳）	935	48.7%	63.3%
高齢者人口（65歳以上）	865	45.0%	24.7%
合 計	1,922	100.0%	100.0%

出典：納内地域～平成25年10月住民基本台帳  
北海道 ～平成22年国勢調査

#### (2) 農 業

##### ①経営面積

納内地域の基幹産業である農業の経営耕地面積は、1,472haで、水田が1,326ha、90.1%を占めています。

この面積を104戸の農業者で耕作していることから、一戸あたりの平均耕地面積は14.2haとなっており、これは北海道の水田農家の平均耕地面積の14.3haとほぼ同じです。

区 分	水 田	畑	果 樹	合 計
経営耕地面積	1,326ha	130ha	16ha	1,472ha

納内地域の農家数：104戸（個人経営95戸、法人9戸）

## ②年齢別経営状況

104戸の農業者のうち、61歳以上の経営者が53戸（51%）と半数を占めています。

後継者は、18戸（17.3%）にいますが、そのうち14戸が未婚であるため、今後、農業経営を継続する上での課題となっています。

区 分	戸 数	後継者		水田作付面積 a	転作面積 b	経営面積 a+b
		未婚者	あり 未婚者			
40歳以下	9	4		14,494	3,050	17,544
41～50	14	2	2	24,302	3,318	27,620
51～60	28	2	8	37,643	9,363	47,006
61～65	18		5	19,183	2,133	21,316
66～70	16		2	8,637	2,490	11,127
71歳以上	19		1	6,491	705	7,196
合 計	104	8	18	110,750	21,059	131,809

## ③離農者の居住状況

高齢化などで離農されても、農業設備の処分で多額の費用を要することなどもあり、そのまま農村地域に居住している世帯が約45戸あります。

こうした離農世帯は、高齢の夫婦世帯や独居世帯が多い状況となっています。

## (3) 商 業

最盛期には、35店ありましたが、現在では食料品の販売店が3店となっているほか、次のようになっています。多くの店舗は経営者が高齢化しており、今後も店舗数が減少する可能性があります。

・食料品販売店	3店	・自動車修理、販売店	2店
・電気店	2店	・理美容店	7店
・飲食店	5店	・建築業等	3店
・薬局	1店		

#### (4) 公共施設・交通機関等

##### ①公共施設

深川市納内支所、コミュニティセンター、診療所（週3日、午前診療）、  
納内小学校、納内中学校（平成26年3月閉校）、クラーク記念国際高等学校

##### ②交通機関

JR：深川～納内～旭川間 1日9往復

バス：深川～納内間 1日14往復（土日10往復）

##### ③生活関連施設

郵便局、信用金庫、農協、ガソリンスタンド等

## 2 納内地域の課題（アンケート調査などより）

### (1) 空き家の増加

地元製材所の閉鎖にともない、従業員が納内地域から転出したため、空き家が増加したため、市街地の空洞化の問題が生じていることから、こうした空き家の活用していく取り組みが求められます。

### (2) 定住対策

アンケート調査では、納内地域への定住意識は高いのですが、65歳以上の高齢者世帯で約2割、75歳以上の単身高齢者世帯で約3割の方が、将来的に転居せざるを得ないと考えていることから、納内地域の魅力を高めていくような、また、安心して暮らすことができるような取組が求められます。

### (3) 高齢者への支援

農村地域では、車のない離農世帯が買い物や通院に支障をきたしているほか、アンケート調査では、75歳以上の高齢者世帯で、通院や買い物で車を運転している方が約半数いることから、今後、車の運転が難しくなった時の対策も含めた高齢者の買い物や通院への支援が求められます。

また、同じく75歳以上の高齢者世帯で、自分と家族で大雪の除雪や屋根の雪下ろしを行っている方が約半数近くいることから、今後、除排雪が難しくなった時の対策が求められます。

### (4) 農村地域から納内市街地への集住

アンケート調査では、農村地域の高齢者世帯で、市街地への転居を考えている方が約2割いることから、買い物や通院の利便性の高い納内市街地への転居を促すような取り組みが求められます。

### (5) コミュニティの活性化

アンケート調査では、コミュニティの担い手となる64歳以下の世帯で、半数以上の方がお祭りなどに参加していることから、今後、さらなるコミュニティの活性化に向けて、地域イベントなどに参加しやすくなるような取組が求められます。

## (6) 納内中学校跡地の利活用

アンケート調査では、平成26年3月に閉校となる納内中学校について、高齢者福祉施設や、産業施設などで利活用すべきとの意見が多くありました。中学校跡地の利活用は、納内地域のまちづくりを考える上で重要なポイントとなりますが、クラーク記念国際高等学校が、平成26年度に創設する硬式野球部の専用施設として利用したい旨、市に要請し、市は譲渡契約と財政的支援をする予定で準備を進めています。

## (7) 地域医療の確保

納内診療所は、築50年以上経過して老朽化が進み、平成25年4月にX線撮影装置が更新されましたが、その他の医療機器は古くなっており、また、週3日の午前中だけの診療となっているため、納内地域で安心して暮らしていくためにも、早期の改築と診療体制の見直しが求められます。

## (8) 農業の振興

基幹産業である農業を守っていくため、農業後継者対策や営農規模拡大に向けた取組などを進めていくことが求められます。

## 3 めざすまちの姿

- (1) 納内地域に暮らす人たちが、住み慣れた地域で、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを基本に、地域に賑わいや活力を生み出して行くことを目指します。
- (2) 地域に暮らす人たちが、お互いに支えあい、助けあって、安心して暮らし続けるために、市街地への集住を推進するなど、安心・安全なまちづくりを目指します。
- (3) 地域に暮らす人たちが、誰でも参加できるふれあい事業の継続と新しい事業の取り組みを目指します。

## 4 納内地域の活性化に向けた今後の取組の方向

- (1) 農村地域に住んでいる離農世帯を対象とした、利便性の高い納内市街地の空き家への転居の促進
- (2) コミュニティの活性化に向けた空き店舗などを利用した住民の憩いの場づくり
- (3) 安心して暮らすための診療所のあり方の検討
- (4) 安定した農業経営のための後継者対策や営農規模の拡大などの検討
- (5) 農業後継者等に対する花嫁対策の検討
- (6) 農業団体等との連携による納内地域の活性化に向けた地域交流事業の検討
- (7) 高齢者の買い物・通院、除排雪等への支援(見守り)の検討

(8) 上記取組を進めていくための集落支援員の導入

## **5 納内地域の活性化に向けた具体的な取組**

(1) 平成26年度の具体的な取組

①過疎集落等自立再生対策事業（総務省補助事業）

○空き店舗等を活用した住民交流の拠点づくり

- ・地元野菜等の販売、地域並びに納内に来町する方々の憩いの場
- ・カフェ風にリフォームし、ふれあいサロンとして活用
- ・地域間交流の場、フリーマーケット等への活用

○市街地の空き家等をリフォームし、住み替え体験

- ・農村地域の高齢者等を対象に、冬期間の住み替え体験
- ・夏期間は、移住・定住希望者へのショートステイなど移住体験住宅としての活用

②空き家の状況調査、集住の意向調査

○住み替え可能な空き家の調査と住み替え希望者の調査・把握

- ・住み替え意識の高い農村地域の高齢者等の空き家への住み替え促進

③納内中学校跡地の有効活用

○クラーク記念国際高等学校への協力

- ・納内地域全体でのクラーク記念国際高等学校への支援体制の構築

④地域イベントの活性化

○地域住民が参加しやすい魅力的なイベントの実施

- ・各種団体が企画するイベント等を通じて住民が参画して交流促進を図る
- ・納内ふるさと夏まつり、伝統文化を通しての交流

⑤集落支援員の導入

○集落支援員を中心に上記取組の実施

- ・専任職員を納内支所に配置し、地域の諸問題を解消していく

## (2) 平成26年度以降も継続して検討すべき取組

### ①離農された方などの市街地への集住化

- ・ 住み替え体験から、本格的な住み替えを実現するための医療施設・店舗・農業関連施設を併設したサービス付き高齢者向け集合住宅の建設等

### ②安心して暮らすための医療の充実

- ・ 診療所改築と専従医師の確保による毎日の終日診療

### ③買い物の利便性向上

- ・ 農協店舗などの食料品販売店の充実

### ④活気あふれる魅力あるまちなかづくり

- ・ ①から③までの機能を備えた複合施設等の整備と、地域商店街の振興策を地域経営者と検討

### ⑤農業者と地域住民が一体となった6次産業の推進

- ・ 農産物の付加価値を高め、安全安心な食品の提供と、農業者の所得向上に資する農産物加工施設の整備

### ⑥農業経営の安定化

- ・ 農業者の安定経営のための圃場の大区画化及び農業関連施設の確保

### ⑦要支援世帯の支援

- ・ 高齢者世帯など、支援を必要とする世帯の見守りや買い物等の支援
- ・ 具体的な見守り方や買い物支援のあり方の検討

### ⑧クラーク記念国際高等学校との連携による地域づくり

- ・ 高校生も地域の一員として地域事業に参画、地域活動によるコミュニティの活性化

## 6 納内地域集落対策協議会 委員名簿

<委員>

(敬称略)

氏名	所属・職名	備考
安藤 一彦	納内町内会（納内町内会連合会会長）	会長
川中 裕	納内町内会（納内生き活きまちづくり委員会会長）	副会長
印牧 久俊	納内町内会（納内町内会連合会副会長）	
山本 徳範	納内町内会（納内町内会連合会副会長）	
撫養 潔	納内町内会（納内町内会連合会理事）	
村中 輝實	納内町内会（納内町内会連合会理事）	
荒井 武敏	納内町内会（納内町内会連合会監事）	
東 廣明	納内町内会（納内生き活きまちづくり委員会副会長）	
河野 司美	納内町内会（納内生き活きまちづくり委員会事務局長）	
谷岡 優	きたそらち農業協同組合納内地区代表理事	
中本 博大	深川商工会議所納内支所副支所長	
水本 美津子	深川市企画総務部納内支所長	

<アドバイザー>

地方独立行政法人北海道立総合研究機構	連携推進本部	
地方独立行政法人北海道立総合研究機構	中央農業試験場	
地方独立行政法人北海道立総合研究機構	北方建築総合研究所	

<事務局>

西田 潤	北海道総合政策部地域づくり支援局地域政策課 集落対策・地域活力グループ主幹	
------	--	--

## 7 平成25年度の取組経過

日 時	内 容
H25. 6. 17	<p>◆第1回納内地域集落対策協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○協議会の設置及び役員の選出</li> <li>○納内地区の集落概況やモデル事業の今後の進め方について協議</li> </ul>
H25. 8. 1 ～ 8. 31	<p>◆集落実態アンケート調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○納内地域集落対策協議会による納内地区の全世帯を対象としたアンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の状況（世帯構成、離れて暮らしている家族の状況 など）</li> <li>・納内での暮らし（交通手段、買い物の方法、除排雪の状況 など）</li> <li>・納内の将来（定住意識、空き家の利活用方法、地域の活性化 など）</li> </ul> </li> </ul>
H25. 10. 18	<p>◆第2回納内地域集落対策協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○東京農工大学の若林名誉教授による講演 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の人口問題と今後について</li> </ul> </li> <li>○アンケート調査の結果を踏まえた意見交換</li> </ul>
H25. 11. 12	<p>◆集落問題研究会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○北海道主催による「集落問題研究会」を納内地区で開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落問題の現状と対策の方向性（研究会各委員より事例報告）</li> <li>・納内地区の住民と研究会各委員との意見交換</li> </ul> </li> </ul>
H25. 11. 21	<p>◆集落問題地域フォーラム in 深川の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○北海道主催による「地域フォーラム」を深川市で開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルディスカッションにおいて、安藤会長より、納内地区における集落対策に関する取組を紹介</li> </ul> </li> </ul>
H25. 12. 25	<p>◆第3回納内地域集落対策協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アンケート調査の結果を踏まえた納内地域の活性化に向けて（たたき台）について意見交換</li> <li>○平成26年度以降の取組について意見交換</li> </ul>
H26. 1. 23	<p>◆第4回納内地域集落対策協議会＜意見交換会＞の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○NPO法人グラウンドワーク西神楽の谷川理事による講演 <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家を活用したまちづくり～冬期集住と移住体験～</li> </ul> </li> <li>○納内地域の活性化に向けて（素案）について、納内地区の住民を対象に意見交換</li> </ul>
H26. 3. 26	<p>◆第5回納内地域集落対策協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○意見交換会の意見を踏まえた納内地域の活性化に向けて（中間まとめ）について協議</li> <li>○来年度の取組について意見交換</li> </ul>



